

■フランス：EDF、仏国内のCO₂排出量を2016年に対1990年比で半減

フランスの大手エネルギー会社 EDF は 2014 年 6 月 16 日、同社の国内における年間 CO₂ 排出量が 2016 年までに 1990 年比で半減する見通しであると発表した。2013 年実績は排出量が 1,692 万 t-CO₂、排出原単位が 0.035kg-CO₂/kWh (1990 年実績は 0.067kg-CO₂/kWh) で、後者は既に半減に近い水準に達している。ただし、発電電力量が 1990～2016 年に 26%増加する見通しであるため、同社は 2016 年までに効率の悪い石炭火力発電所約 300 万 kW をコンバインドサイクルに置き換え、排出原単位をさらに 3 分の 1 以上低下させる考えである。なお、同社のフランス国内における電源構成（発電電力量ベース、2013 年実績）は原子力 85%、水力 11%と CO₂ を排出しない電源が 96%を占めており、CO₂ 排出原単位は EDF グループ全体の平均の約 3 分の 1、欧州のエネルギー会社平均の約 10 分の 1 の水準と非常に低い。